



月刊 千葉労働

5/1 メーデー100周年

各地区メーデーをけん引して

事業団闘争を

訴えよう



メーデーは、今年でち

ようど一〇〇周年をむかえる。この一〇〇年の歩みは支配階級による弾圧、首肯り、差別、抑圧との管々とした闘いの歴史でもある。

時々は勝利を味わいながらも、その多くは血と汗と涙を流しながら、「

一人はみんなのため、皆は一人のために」という労働者の精神を重んじ、仲間を信じながら、ひるむことなく労働者階級の解放をめざし共に闘い前進してきた一〇〇年でもあるだろう。

こうした中で、日本政

府・JR当局は、歴史に逆行するかのごとくメーデー一〇〇周年目の三月三十一日、一五〇〇名余の清算事業団労働者の首切りを強行し、やむにやまねず立ち上がったわが

労働千葉の合法ストに対し処分すら画策している

のである。

われわれは、労働者の実力決起の歴史と伝統を学び、今最大の課題となっている清算事業団闘争にむけて決意も新たに闘わなければならない。

労働者の抵抗を否定し、

米の暴落

一八八五年

労働者は低賃金と苛酷な労働条件、労働環境の中にたたき立てられており、それを突破するためにアメリカ労働総同盟は、翌八六年の五月一日を期して八時間労働獲得のためのゼンストをきめる。この

決定は、全米の労働者の熱烈な指示をうけ、

翌八六年五月一日

指令どおり米の主要都市の労働者がゼンストにたちあがり、その数は五〇万人に達し、その後数日間に十二万五千人が八時間労働制を獲得し、一ヶ月後には二十万人が獲得した。

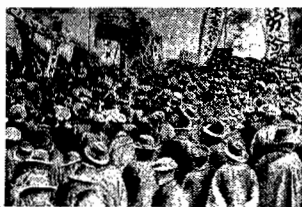
しかし支配階級は、シカゴのハイマーケット広

場での謀略を機に大弾圧に乗り出し、労働運動は一時後退を余儀なくされる。

だが労働者はくじけなかった。再編された組織は再び全力決起を決定し、折から結成された国際労働者協会(第二インタ)と連帯し全世界の労働者と手をつなぎ前進を開始した。

一八九〇年五月一日

ついに全世界の労働者が一斉にスト、デモに決起。第一回国際メーデーの発足である。



日本の初回メーデー



ハイマーケット事件

労働者階級を永遠に資本、当局の下に組み込もうとする「連合」の「お祭り騒ぎはメーデーとは無縁である。ましてやJR総連革マルには、それへの参加資格すらない。われわれは、こうした情勢をしっかりとみきわめ、各地区・地域で闘っている多くの労働者との連帯を強めなければならない。全組合員は、全力で各地区メーデーをけん引し、その中で清算事業団闘争支援を訴えよう。

労働者学校

不当瓜分粉砕にむけ

ストライキ権と支配介入

5月7日(月)13時 福祉センター



講座
案内

NHK

労働千葉、事業団
問題を特集

5月6日PM6:00

インターネットで

00000000000000